

事業継続推進機構 BIA 研究会議事録

日時：平成 24 年 6 月 22 日（金）15：30～17：40

場所：BCAO 事務所（中央区日本橋 4-3-4 東海日本橋ビル 7 階）

参加者：野田座長（日本経済研究所）、木根原様（三菱総合研究所）、田中様（グリコ栄養食品）、齊藤様（オフィス彩）、高橋様（高橋海事 I S O 労働事務所）、織田様（ツバキサポートセンター）、伊藤（日本経済研究所）

【内容】

1. 木根原様より資料「ビジネスインパクト分析と事業継続戦略の立案に関する検討イメージ（第 1 版）」の内容について説明
2. 意見交換

【主な発言】

- 重要業務の定義を明確にすることは、BIA にとって大切である。任務や立場によって重要業務の認識は相違する。事業継続推進機構や内閣府の定義に「事業」という言葉は出てこない。中小企業庁では、中小企業の場合は社長が担う部分が多いので「事業」単位となっている。社長の目線であれば、どの「事業」が重要かということになる。
 - 重要業務については、自分の分担は全員重要だと主張するので、トップダウンで決めないと収拾がつかない。特に役所の BCP では、自分の部署の業務はすべて重要だと主張する傾向がある。重要業務を社長が抽出した上で、RTO も社長が決めていくべきである。一方で、トップダウンとボトムアップを上手くすり合わせることも重要であり、一方通行では問題もある。最後は顧客が納得するかどうかで決定するのだろう。
 - 被害想定を行うのは、重要な経営資源がどの程度保持されるか見極めるためである。例としては、製造業で金型が直下地震の直後に使用可能かどうか、リスクの要素を検討してからどのような方法をとるか考えること等がある。
- 次回は、7/27（金）に実施予定。